

# IA Y 日本語教師養成講座 修了生の声!

西坂先生 (IA Y 勤務中)

第40期修了生です!

## Q1 日本語教師になろうと思ったきっかけは?

英会話講師をしていた当時、同僚の外国人の先生に日本語の表現について突然質問をされました。「忘れた」と「忘れていた」はどう違うのか」という質問に私は混乱して答えることができず、実際にはニュアンスが異なるにも関わらず「その2つの表現は同じ」と答えてしまいました。せっかく日本語に興味を持ってくれた外国人の方に間違いを教えたしまったという心苦しさから、長い間そのことが心に引っかかっていた。正しい日本語を教えたいと思い、日本語教師になることを決めました。



## Q2 日本語教師になってみて一番楽しいと感じる時は?

日本語教師になって初めて担当したのは、台湾出身の4歳の女の子のマンツーマンのクラスです。こんにちへの歌、さようならの歌、あいうえおの歌、日本の童謡、折り紙などを交えながら子供らしい日本語の表現となるよう注意しながら教えています。クラスに来た当初は日本語を理解していないのでこちらの呼び掛けにうなずいただけだったが、一か月ほど経過した今では表情も豊かに日本語での質問にもナチュラルに答えられるようになり、意思疎通を図れるようになってきました。また、このレッスンのために作ったこんにちへ、さようならの歌、あいうえおの歌をレッスン中に何気なく口ずさんでくれているのが何より嬉しく思います。やはり、生徒さんの日本語のレベルが進歩したことを実感した時が一番楽しいと感じます。

## Q3 大変なことや辛いことはあるの?

自分の担当している生徒さんのことを考えながらレッスンプランを考えると、考えても考えても計画がまとまらずゴールが見えなくなってしまうことがあります。先が見えずに時間だけが経ってしまう時は不安で押しつぶされそうになりますが、一旦光が見えると俄然やる気が湧いてきて、より良いレッスンにしようと時間も惜しまずレッスン準備に没頭することができます。好きこそ物の上手なれです。

## Q4 IAYの養成講座で学んだことはどんなところで役立っているの?

日本語の文法クラスで、類義語はあっても全く同じ意味の表現はないと教わりました。今後二度と表現の違いを聞かれた時に意味が同じと答えることはありません(笑) また、模擬授業のクラスでは文法重視の不自然な日本語を練習させることのないようトレーニングを受けましたので、これからも心掛けていきます。

## Q5 これから日本語教師を目指す方にメッセージをお願いします!

毎回レッスンプランは必ず立てますが、生徒さんはこちらが思ってもみなかったところに興味を持ってくれることがあります。そのような場合は、柔軟にレッスン内容を変えていくことも必要だと思います。日本語教師の現場では、これまで培った様々なジャンルの知識や経験を活かすことができます。生徒さんと授業を作り上げる楽しみを味わってください。日本語教師の現場では、これまで培った様々なジャンルの知識や経験を活かすことができます。